

第12回大会(現地研究会)に参加して

高橋俊行

(弘前大学農学部)

去る47年9月11日～12日の2日間にわたり、根釧地方の畜産施設・酪農経営についての現地研究会が開催されたので、その様子を次に紹介しよう。11日13時40分に釧路駅前をバスにより出発したわれわれは、国道38号線を西へ、大楽毛からまりも国道へ入り最初の見学地である北海道畜産振興公社の釧路食肉処理工場(釧路市新野)へ向う。

釧路食肉処理工場：北海道畜産振興公社はホクチクと略称し、昭和45年8月に設立されたが、その目的は酪農の進展にともない増加する乳用雄子牛を肉用として肥育する技術を確立し、その肉を近代的方法により処理加工し、食肉の生産・流通の近代化により酪農経営の安定と食生活の向上をはかることである。4億6,800万円を投じ46年11月から操業を開始しただけあって、新しい近代的な施設である。

ここでの作業順序は、けい留場から引き出された牛は体重を測定し、ノッキングベンにおいてと殺銃によりと殺され、高架軌条に懸乗されたまま放血・解体・剥皮され、分割作業を経て枝肉となる。枝肉は懸肉室に運ばれ、冷蔵庫に保管される、次に高架軌条により加工室へ運ばれ正肉となる。正肉は真空包装され、ダンボール箱に詰められ、チルド肉(真空包装肉)として出荷される。

と殺解体能力は大動物1日100頭・小動物1日200頭であり、冷蔵保管能力は1日230頭である。

施設をみると、動物けい留場390m²、と殺解体室430m²、内蔵処理室270m²、懸肉室150m³、冷蔵室330m³、冷凍保管室210m³、資材室や機械室など合計2,074m²ある。その他に焼炉80m²、浄化槽430m²を設け、いわゆる畜産公害の防止に意を用いている。

建物・施設が新しいせいもあるが、室内は清潔で、従業員の顔もいって明るい。いわゆる、と殺場といった暗いイメージは全く感じられなかったことは喜ばしかった。見学予定時刻をオーバーし次の見学地である標茶町育成牧場へバスを走らせた。

標茶町多和育成牧場：磯分内に近く、総面積1,477haを占め、昭和42～46年にわたり総事業費6億7,770万円を投じて完成したものである。採草地260ha、放牧地730haがある。夏期間の(5～10月の150日)1日平均放牧頭数は昭和47年の実績では2,200頭、冬期間の(10～5月の215日)1日平均舎飼頭数は400頭であった。

農業機械関係の施設は、トラクタと付属機械8セット3,194万円、その格納庫1棟324m²

498万円がある。乾牧草調製施設としてドライヤ1台と乾草舎1棟310万円がある。他に電気関係の施設としては単相線があるが、動力源としては物足りない感じがした。

牧場の展望台において、場員の方から種々と説明を聞いたのであるが、日は暮れてくるし寒いということで、早々に引き上げ、今夜の宿泊地である養老牛温泉へ車を走らせた。

佐藤牧場：養老牛温泉を早朝に出発したわれわれは、中標津町侯落の佐藤牧場を訪問した。昭和30年群馬県から入植し、現在は兄弟2人の共同経営である。採草地70ha、放牧地30ha、その他をあわせ142haの土地と乳牛86（うち経産牛56）、肉牛39を所有している。昭和46年度の経営収支をみると所得率29%であって低い感じがする。1頭当たり乳量は4150kg脂肪率3.4%であり、全体的にみて健全経営であるといっておかろう。

ここでの機械施設は、自走ハーベスタ1セット（5戸共同）、トラクタは77馬力をはじめ56馬力と36馬力合計3台あり、ワゴン2台、グラスチヨツパなどの作業機8台ある。農機具庫は132m²1棟あるが、狭いためと収穫期であった関係からか、かなりの機械類が屋外に放置されており、しかも手入れは十分でないように感じられた。

この施設での特長はサイロであるといえそうだ。すでに5基あるが、ほかにFRP気密サイロを建設中であつた。これは某薬品メーカーの試作品であつて、佐藤牧場に設置するものは試作第2号ということである（第1号は広島町に設置したという）。直径4.2m、高さ9.7m、容積100m³、自重3tとのことである。FRPというのは、Fファイバー、Rレインフォースド（強化）、Pプラスチックの略称で、プラスチックとガラス繊維とを固めたものといわれている。

FRPの特長はメーカーの説明によると、軽くて機械的強度が大きい、化学薬品に腐蝕されない耐光性と耐水性が優れている。衝撃強度が大きく変形しにくい、着色が容易で変色や褪色がない。遮熱性が大きい、であつてまことに結構づくめということになる。しかし前述のように試作品であつて、今後は気密性、強度、内壁の平滑性、内部の温度と気圧、さらに仕上りのサイレージの品質についても調査する予定のようである。メーカーの宣伝どおりとすれば良質のサイレージができるはずであり、調査の結果に期待したい。なお、このサイロにボトムアンローダを設置して、サイレージ取り出し労力の軽減をはかっている。

竹下牧場：中標津町侯落にあり、採草地60ha、放牧地50ha、乳牛142（うち経産牛84）の経営である。昭和46年の実績によると、所得率28%で低い感じはするが、1頭当たり乳量4,320kg脂肪率3.5%であり、まあまあ健全な大型酪農経営といえる。佐賀県から昭和31年に入植したのであるが、九州大学卒の農学士だけあつて少々変わった経営を行なつてきた。夏期間だけ搾乳を主体とする営農により乳牛の増殖をはかり、36年頃からは経営が安定してきたので42年以後は農業構造改善事業により機械の導入・畜舎の新設・離農跡地の購入などにより、経営の大型

化をはかった。

農業機械の関係では、共有の自走式ハーベスタ1セットのほか、トラクタ2台、グラスチヨツパ・ヘイモア・ヘイレーキ・ヘイベーラなどの牧草収穫機のほか、スラリーポンプ（糞尿中の長い草やわらを細切し、尿を送り出すポンプ）尿散布機やブロードカスタなどの糞尿処理や施肥の機械など2台のトラクタと9点ほどの作業機を所有している。これらの機械類を格納するため139m²ブロック造りの農機具庫が新築されていた。

われわれが牧場を訪問したのは午前8時頃であったが、10時頃から牧草の収穫を行なうということで（われわれ見学者の便宜も考えてくれたのであろう）収穫作業に用いるトラクタ・フォレンジハーベスタ・ウインドローア・ワゴンなど一連の作業機がずらりと整列されていた。機械の保守管理の状況は良好のように見受けられた。

当農場は3相電力の供給があるので最近2000ℓ容量のアイスバンク式バルククーラーを導入し、パイプライン搾乳方式の採用と相まって、搾乳の省力化と乳質改善を図っている。また、乾草の運搬、給飼の省力化を目的として電動キャリヤが施設されていた。

糞尿の処理、いずれの牧場においても頭のいたい問題であり、パーンクリーナを施設しても舎内での労力問題は解決されるが、寒冷多雪地帯では舎外での処理が問題になる。この牧場のもうひとつの特長は、スノコ落下式牛舎（825m²）である。スラリーポンプと尿散布機の組み合わせにより、合理化をはかっている。この方式は今後とも普及すると思われるが、問題は建設費であろう。

標津依橋地区大規模草地：中標津町と標津町の間でやや標津寄りで国道272号線の北側に展開する草地である。標津町役場の岡本課長さんの説明を聞いたが、放牧地（低位泥炭）590ha、採草地（沖積土）120haある。放牧は5月下～10月上の130日間行なうが、1群200頭の乳用育成牛を12群編成し（計2,200頭）2～5日のローテーションにより放牧する。10月上～5月下の235日間はルーズハウジング方式で舎飼する（利用頭数230頭）。利用対象農家は標津町270、中標津町600である。

草地造成の工法を紹介すると、泥炭地では抜根（レーキドーザ）明渠堀削（ショベル）野地坊主転圧（湿地ブルドーザ）土じょう改良資材散布（ライムソフ）耕起（ロータベータ）鎮圧（ケンブリツヂローラ）排水（トレンチャ）播種（グラスランドドリル）鎮圧（ケンブリツヂローラ）の順に施行する。沖積地では、明渠・野地坊主転圧・排水は不用であり、耕起碎土にはブラツシュプレーガとハローを用いる。

ホクチク根室肥育実験牧場：最初に見学した食肉処理工場とベアーになった施設といってよい。寒冷地での屋外肥育方式（フィードロット）による肥育技術の開発と普及を目的とする実験牧場である。月令14～18ヶ月の肥育用牛を約6ヶ月間肥育し、生体重600kgの肉用牛に仕上げる実

験を行ない、肥育を終った牛は釧路食肉処理工場へ移す。

施設としては予備肥育ロット、8,000 m²のロット3、6,400 m²のロットこのほかバンカーサイロ、乾草舎、農具舎、トラックスケールなどがあり、収容能力は1,000頭である。各ロットには簡単な畜舎・水呑場・草舎・総飼槽が備えられているが、乾牧草や飼料の給与に便利をよように施設されている。また作業の便と保温を兼ねて、一部にロードヒーティングがなされている。

根釧酪農の現況と問題点：食肉処理工場から標茶町育成牧場へ向う車中で根釧農試の金川専技さんの講話があった。酪農といえば宗谷天北と比較されがちであり、根釧とくに根室酪農は大型であり、大農業機械が普及し、経営内容も飛躍的に発展しているといわれているが、その一部を紹介すると、100戸当たりのトラクタは全道が20台に対し根室35台（宗谷15）トラック全道27台に対し49台（宗谷12）フォレージハーベスタ1台に対し13台（宗谷1）ヘイベラ1台に対し2台（宗谷1）という具合で、貴重な資料が多数表示されていた。金川専技の御好意に深く感謝する次第である。



現地研究会風景

（ホクチク釧路食肉処理工場事務所前，47年9月11日）